

1 題材名 「使って楽しい器づくり 焼き物」

2 題材について

本題材は、粘土の感触を味わいながら楽しく創作活動ができ、かつ焼き上がった作品を目にした時の喜びを味わえる学習である。手や道具をたくさん使って立体工作をするため、想像する力と技能が育てられ、つくる喜びを十分に味わえる学習である。

小学校指導要領では、第5学年及び第6学年の内容A表現(2)「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して」ア「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けて表すこと」、イ「形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと」に対応したものである。ここでは、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことを焼き物の制作を通して立体にして表現し、造形的なものの方や考え方、造形感覚を養うことができると考える。鑑賞においては、第5学年及び第6学年の内容B鑑賞(1)親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、ア「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること」、イ「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりする等して、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること」に対応している。アでは、4月に社会科で学んだ縄文土器や家庭にある食器や花瓶、鉢等と、学習で制作した作品を比較して考えることで、くらしの中で道具として利用されていたり、美術品として扱われていたりすることに気付けるようにする。

本学級は、男子16名、女子14名、計30名の学級である。図工についての興味や関心、経験についていくつか質問したところ、図工の学習は、ほとんどの児童が「好きだ。」と答えた。その中には、「得意ではないけれど、好きである。」という児童もおり、得意や不得意に関わらず図工に対する興味や関心が高いことがうかがえる。また、描画と造形について聞いたところ、造形への関心がとても高いことが分かった。いままでの経験の中で、身の回りの材料を組み合わせる学習や、粘土遊び、木材を使った学習等、楽しい思い出があることが分かった。焼き物については、まだ学習の中では経験がなく、家族と一緒に経験したことがある児童が数名いたのみであった。そのため、本題材は、児童にとって新鮮であり、期待感をもって活動できる題材といえる。

題材の工夫として一つ目は、活動をしやすくするため、つくるものを「器」に限定し、「何をつくっていいかわからない。」という状況をなくすこと。二つ目は、飾りや模様付けの用具の一部を身近な材料にすることで、縄文土器のようにその場にあるもので、いかようにも表現できることを教え、ものづくりのおもしろさを感じられるようにする。三つ目は、なんとなく作品づくりをするのではなく、「使えるもの」をつくることである。「～のための器」とした方が、目的意識をもって制作できらうと考える。

児童には、粘土の感触を味わい自分のイメージするすきな形をつくっていく中で、つくる楽しさや喜びを感じてほしい。また、これから中学校、高校、社会へと進む児童らにとって、本題材での表現することや生み出すことのよさや楽しさを味わう経験は、きっと有意義なものになると考える。

3 題材の目標

○焼き物に興味をもち、自分のすきな形の焼き物を進んでつくる。

(関心・意欲・態度)

○玉づくりや手びねりの特徴を生かし、楽しんで使える物やその形を考えることができる。

(発想や構想の能力)

○玉づくりや手びねりの特徴を生かし、用途に合った焼き物を工夫してつくることができる。

(創造的な技能)

○焼成した作品の形や模様の特徴の工夫のおもしろさに気付くことができる。

(鑑賞の能力)

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
粘土を用いて、自分の好きな形の焼き物をつくることに取り組もうとしている。	玉づくりや手びねりを生かして、自分の好きな焼き物の形を考えている。	目的や使い方に合わせて玉づくりや手びねりの技法を使って、粘土の特徴を生かした作り方を工夫している。	焼成して作品の形や立体の感じ、質感を確かめながら、焼き物のおもしろさを味わっている。

5 指導計画 (全6時間)

時間	子どもの活動	教師の支援・指導
1 ・ 2	<p>学習内容の把握 ○器を好きな形をモチーフにして焼き物づくりをすることを知る。</p> <p>粘土や用具に触れる ○焼き物用粘土を使って、様々な技法や用具を使ってつくることを知る。</p> <p>○焼き物用粘土と用具を実際に使い、粘土の特徴を感じ取る。</p> <p>技法を試す ○玉づくりや手びねりの技法を試す。 ※粘土が乾かないようにぬれ雑巾と二重のビニル袋で水分を保持する。日を開けて乾燥させないように、2時間を連続で行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・器は、動植物や身近な道具や建物など、好きなものをモチーフにしてよいことを知らせる。 ・様々な技法や実際の用具の紹介をし、制作方法のイメージが湧くようにする。 ・焼き物用粘土と用具に触れ、粘土の特徴を感じ取り、作品の構想につなげられるようにする。 ・玉づくりや手びねりの技法を演示し、技法のポイントを知らせる。 ・技法を演示し、器上に広げていく方法や広がるのを抑える方法、器の厚さを均等にしていける方法について指導する。
3	<p>構想 ○器の種類やモチーフ、飾りのイメージを、ワークシートにかく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サラダ容器、カレー皿、お菓子入れ等、それぞれの用途を考えるようにする。 ・ワークシートにイメージを図や言葉でかく。例:「カレー皿⇒葉の形」「お菓子入れ⇒あめの形など
4 本時	<p>制作 基本の形を作る ○玉づくりや手びねりの技法を生かしてつくる。 ・粘土に触れる左右の手の形や力の入れ方に気を付けてつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・器の底から水などが漏れないようにするため、玉づくりの技法で制作する。 ・膨らんだものやすり鉢状、三角柱や円柱、植物や動物の形等、イメージしたものを形にしていけるようにする。

	○基本の形の鑑賞をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・焼成後の割れを防ぐため、粘土の厚さを指一本分程度とし、薄くなりすぎないようにさせる。 ・装飾用の粘土をとっておくようにする。 ・友達の子作品の発想や工夫を鑑賞することで、制作のアイデアとする。
5	飾り付け ○考えたり、つくりながら思いついたりした飾り、模様を施す。 <ul style="list-style-type: none"> ・用具や指を使って、押しつけ・線付け・かく・削る・切る・穴あけ・変形・つくって貼るなどを行い模様や飾り付けをする。 ・のし棒の使い方や粘土の切り方、接着の仕方に気を付けて制作する。 ○鑑賞をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・焼き物をどのような形や模様、飾りにしたらおもしろい作品になるかを考えてつくるよう伝える。 ・構想したものにとらわれず、つくりながら形や飾り、模様を変えたり追加したりしてよいことを知らせる。 ・切り弓や粘土べら、どべ等の用具をすぐ使えるように机上に用意する。(用具：バットにまとめておく。) <ul style="list-style-type: none"> ・友達の子作品の発想や工夫を鑑賞することで、焼き物のおもしろさを感じ取れるようにする。
6	鑑賞 ○焼き上がった自他の作品の手触りや色、質感や重量感、立体の感じなどを味わう。 <ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品をどのような時、どのように使うのか考え、ワークシートにかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品の手触りや色、質感や重量感、立体の感じなどの鑑賞のポイントを示す。 ・鑑賞して気付いたことや感じたこと、想像したことなどをワークシートに書き、発表を通して全体で共有できるようにする。 ・昔の人々も粘土を使った焼き物をつくっていることを思い出させ、焼き物と生活の関係を考えられるようにする。

6 研究の視点

視点1：イメージしたものをのびのびと表現するための手立て

イメージした形や模様をストレスなくのびのびと表現できるようにするため、学校や家庭の負担ない身の回りにある材料で、焼き物の道具や材料、制作方法にいくつかの手立てを講じる。

① 重ねた新聞紙の活用

新聞紙を粘土の塊が置けるほどの大きさに切り、それを数枚（ここでは8枚）重ねる。重ねた新聞紙の上に粘土を置くと、新聞紙と新聞紙が重なり合っているため摩擦が少なく、粘土を回転させることができる。重ねた新聞紙がろくろの代わりとなり、制作がしやすくなる。

② 玉づくりから手びねりの技法での制作

焼き物を経験したことのない児童らにとって、焼成後の割れが懸念される。そのため、飾り以外の器本体に接続部がない玉づくりからの手びねりの技法であれば、割れのリスクが軽減できると考える。また、ひもづくりや板づくり等様々な技法を習得し、実践するとなると多くの指導時間が必要となる。制作においても指導が多岐にわたり、指導しきるのが困難になるだろうと考える。

視点2：表現の幅を広げるための工夫

① 身近なものを模様付けの用具とする

模様を付ける際は、粘土べらだけでなく、木材や葉の葉脈、つまようじ、割り箸で作ったスタンブ棒、ペットボトルキャップ、ストロー、フォーク、鉛筆等、身近にある材料を用意する。

② 釉薬の色を意識した模様付け

釉薬は液体なので、粘土の凹んだところへ流れて溜まり、色が濃くなり濃淡が表現できる。その現象を意識して模様付けを行うことで、表現に幅が出ると考える。

7 本時の指導

(1) 目標

- 自分の好きな形の焼き物をつくることに取り組む。 (造形への関心・意欲・態度)
- 玉づくりや手びねりの技法を生かして、自分の好きな焼き物の形や飾り付けを考えてつくることができる。 (発想・構想の能力)

(2) 準備物

材料) 焼成用粘土 1 kg

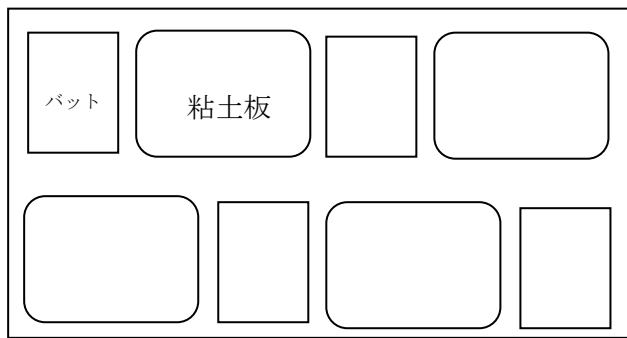
用具) 粘土板、新聞紙、切出し糸、切り弓、ぬれスポンジ、ぬれタオル、ビニル袋
霧吹き (教師)

(3) 展開(4 / 6)

学習活動と内容	指導・支援の留意点	資料
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙、切出し糸等の道具の使い方を確認する。 <p>2 本時の学習内容を確認する。</p>	<p>○用具の扱い方や安全に使うための方法について確認できるようにする。</p> <p>○本時は、飾りつけ前の基本の器の形を仕上げるところまで行うことを押さえる。</p>	<p>掲示物 「いろいろな器の形状」「成形の仕方」「粘土の特徴のイメージ」 黒板に掲示 「制作の手順」</p>
<p>3 作品づくりをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>粘土の特ちょうを手で感じ取りながら器をつくろう。 ※好きな形、自分のアイデア</p> </div> <p>○必要なものだけを机の上に乘せるようにし、作業スペースを確保し、活動しやすくする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>用具：バットにまとめる。 椅子：しまっておく。 構想図：作業台の横に掲示。</p> </div> <p>○制作終了時刻を知らせ、見通しをもって活動できるようにする。</p> <p>○構想に固執せず、つくっていきながらイメージを広げて作品づくりをするよう伝える。</p> <p>○作り始めて技術的に難しい場合もあるため、構想からそれたものを失敗と捉えず、予期せずできた形を生かしてつくってみるのもおもしろいということを伝えておく。</p>	

<p>・構想した作品の底面の大きさに合わせて粘土の塊を圧して大まかに成形する。</p>	<p>○テレビと書画カメラを使って、制作のポイントを全体で確認する。</p> <p>○底面の大きさを手びねりする前に圧してつくることで、成形をしやすくする。</p> <p>○用具や手の使い方は適切に扱えているか確認し、できていない場合は助言したり、手本を示したりする。</p> <p>○技術的に難しさを感じ、制作が進まないでいる場合は、やり直しができる形まで教師が修正し、制作が続けられるようにする。</p> <p>○粘土の厚さが均一になっていない場合は、整えるよう助言する。</p> <p>○粘土の厚さが薄すぎるときは、粘土の補強の仕方を伝えたり、手本を示したりし、補強部に溝をつくらぬよう助言する。</p> <p>○制作開始15分後に一度、粘土の載っている新聞紙を交換し、新聞紙の粘土への貼り付きを防止する。</p> <p>○手の温度による粘土の乾燥が生じ、ひび割れてきたときは、スポンジで粘土を湿らせるよう知らせる。(必要に応じて、教師が霧吹きで粘土を湿らせる。)</p> <p>◆粘土を用いて、自分のすきな形の焼き物をつくることに取り組もうとしている。(造形への関心・意欲・態度)</p> <p>◆玉づくり、手びねりの技法を生かして、自分のすきな焼き物の形を考えてつくっている。(発想・構想の能力)</p>	<p>TVと書画カメラ</p>
<p>4 班の作品のよさや気付いたことを発表する。</p>	<p>○友達の作品を鑑賞することで、焼き物のよさやおもしろさを感じ取り、制作の意欲を高める。</p> <p>○児童の言葉が足りないときは、教師が言葉を補い称賛する。</p>	
<p>5 本時の学習のまとめをする。</p>	<p>○どのように粘土を感じ取って制作するのかについてのまとめを伝える。</p> <p>○次時の学習内容を知らせ見通しがもてるようにする。</p>	
<p>6 材料や用具を片付ける。</p>	<p>○片付け方と手順を知らせる。</p> <p>○片付けは、素早く行うよう知らせる。</p> <p>○粘土はぬれタオル(ビニル袋に入れておく)で覆い、乾燥から粘土を守れるようにする。</p>	

(机上の配置)



○使って楽しい器づくり 焼き物 (例)

6年 1組 番 名前 ()

用途 (使い道)	カレー皿
モチーフ	葉っぱ
飾り・模様	葉脈、ギザギザのふち、福神漬け置き (葉の形)
必要な道具	つまようじ、切り弓

○使って楽しい器づくり 焼き物

年 組 番 名前 ()

用途（使い道）	
モチーフ	
飾り・模様	
必要な道具	

